

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)
／松岡 貴史

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

これまで授業においては、基礎学力を習得させるとともに、他領域や教育現場のニーズとの関連をもって音楽科教育を多面的・総合的に捉え、様々な場面で応用できる力を養成してきた。また、個々の学習を深化させるとともにクラスにおける学び合いを促し、特に作曲関連の授業においてはオリジナリティーと表現性やコミュニケーション性を大事にする姿勢を明確にしてきた。

これらの取り組みを堅持しながら、担当する授業の中で、教養基礎科目、専修専門科目、教職実践コア科目がさらに有機的な関連をもつように授業を構成するとともに、学生の到達度をもっと客観性をもって入念に検証し、教職実践演習に結実できるよう配慮する。

2. 点検・評価

基礎学力の強化、さまざまな視点の育成、学び合いによる働きかけや発見の促し、表現力やオリジナリティーの育成、コミュニケーションの広がりなどを大切に考え、授業を実践してきた。こうした取り組みは、知識の単なる積み上げではなく、豊かな教養を醸成しようとするものである。教職実践コア科目においては、模擬授業を行うなど、特に学校現場との関連性を重視し、また教養基礎科目「西洋の文化研究」や作曲関連の授業では、他の領域とも有機的な関連をもって授業を進めた。また、毎授業において課題を出し、学生の到達度をチェックしながら授業を進めた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・ 学生が主体的に授業に参加できるよう、発表や討論を取り入れる。
- ・ 複数教員担当授業については、講義内容の関連付けができるよう、さらに連携を図る。
- ・ 授業外でも学生が質問しやすいよう、また教員採用試験に向けての支援をするため、オフィスパワー等を活用する。
- ・ 普段から人間形成に音楽の果たす大切な役割に触れ、学生の創造力、表現力、コミュニケーション能力の伸長をあたたく見守る。
- ・ 学部3年生のクラス担当教員として、学生とのコミュニケーションを大切にし、心の健康を見守り、学生生活を支援する。

2. 点検・評価

授業については、学生が主体的に参加できるよう発表や討論を取り入れている。これは、学生による授業評価でも評価されている。複数教員担当科目については、前期は「初等中等教科教育実践Ⅲ」において、後期授業においては「音楽通論」「初等音楽」「西洋の文化研究」などにおいて、担当者間で十分に連携を取り、授業を進めた。授業外でも学生が質問しやすいよう、また教員採用試験のためには特にコマを設け十分な指導ができるよう、オフィスアワーその他の時間を活用した。特に学部3年次生のクラス担当教員として、学生とのコミュニケーションを大切にし、学生生活を支援した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ・「満月の夜の物語」(原作:ミヒヤエル・エンデ)の作曲を完成し、舞台初演する。
- ・「中国四国の作曲家」(2011広島)に出品するとともに、同(2012徳島)開催の準備をする。
- ・管弦楽曲、室内楽曲、ピアノ曲、合唱曲のうちいずれかの作曲をするとともに、必要に応じてピアノ等の演奏をする。
- ・昨年度に申請した科学研究費補助金の結果に基づき、音楽コース全教員とともに「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽か教員養成カリキュラムの研究」を開始する準備をする。

2. 点検・評価

5月に音楽物語「満月の夜の物語」(原作:ミヒヤエル・エンデ)の作曲を完成し、9月に阿南市夢ホールで舞台初演した。この作品は、フルート、サクソフォン、ピアノと朗読のためのもので、作曲者自身がピアノを演奏した。5月に「中国四国の作曲家2011in広島」にて、ギターのための作品「大地のオーラ」を発表した。さらに、「中国四国の作曲家2011in徳島」のプロデューサーとして、開催の企画・準備を進めたほか、そのコンサートで初演するピアノ曲及びリコーダーとアルトのための曲を作曲した。11月には相生森林美術館(徳島県)で開催されたミュージアムコンサート「ピアノとマリンバの音あそび」でピアノ即興演奏を中心とするプログラムを組み、聴衆との間で相互触発することのできる空間を作り出した。12月には、全日本ピアノ指導者協会から委託のあった課題曲アナリーゼ特集を執筆し、3月に刊行された。科学研究費補助金については、音楽コース全教員とともに「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽か教員養成カリキュラムの研究」を申請した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

芸術・健康系教育部の教員として、また各種委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

音楽コース教員として、また教育研究評議員、国際交流委員会委員、附属図書館運営委員会委員、エコアクション21運営委員会委員として業務を遂行した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・教育実習や授業支援等を通して, 附属学校との連携を図る。
- ・十年次研修等を担当し, 現職教員の支援を行う。
- ・教育支援等を通して, 地域社会との連携を図る。
- ・自らの専門性を生かし, 国際交流に貢献する。

2. 点検・評価

教育実習において、学生に指導・助言を行ったり音楽担当教諭と授業の進め方に関する指導等について話し合うなど、附属学校との連携を深めた。8月に、大学・研究機関等研修(10年次研修)の講師として「キーボード・ハーモニーでmy melodyを作ろう」を担当した。社会との連携に関しては、夢ホール市民協議会から委嘱を受け、コンサート「満月の夜の伝説」の作曲・演奏を行ったり、相生森林美術館から委嘱を受けたミュージアムコンサート「ピアノとマリンバの音あそび」を行ったほか、創作、ピアノ、合唱分野等のさまざまなコンクールの審査やアナリーゼやピアノ演奏法に関するセミナー等、自らの専門性を生かして地域社会との連携を進めてきた。国際交流に関しては、常々、作曲や演奏活動を通じて実践しているが、11月には、スペインのグラナダ市で3日間にわたって開催される子どもを対象としたコンサートに、自作品「竹取物語」を提供している。

点検・評価

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教育研究評議員として大学の運営に貢献し、教育面では新たに「西洋の文化研究」を担当し教養教育にも力を注いだほか、研究面では夢ホール市民協議会から委嘱を受けたコンサート「満月の夜の伝説」の作曲・演奏や、相生森林美術館から委嘱を受けたミュージアムコンサート「ピアノとマリンバの音あそび」で即興演奏を行うなど、音楽を通して、文化の持つ力を社会に投げかけることができた。また、附属学校との連携を図り、国際交流にも貢献できた。